

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第49号

発行:2016年7月17日
発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-0160・(082)428-1360

盆会法座

日時 8月1日(月) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30 昼席 13:00~15:00

ご講師 山下瑞円 師(岡山県高梁市成羽町 浄福寺副住職)



第56回歎異抄輪読会

日時 7月21日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

※ 7月14日(木)にお出で頂きました方がたには、再度ご参詣を頂きます事お詫び並びに感謝申し上げます。

磯松天龍寺墓苑並びに合同墓(永代供養墓)合同参拝

日時 8月12日(金) 18:00~19:30

場所 磯松天龍寺墓苑

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。
但し、天龍寺墓苑での合同参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

★天龍寺仏教壮年会 月例会 7月31日(日) 19:00~20:30

天龍寺清掃奉仕に対しまして感謝申し上げます。

先月の6月11日(土)に天龍寺にご関係をいただいております天龍寺仏教婦人会のみなさまによる清掃奉仕をしていただきました。

仏教婦人会のみなさまには、本堂内も含め清掃をしていただきました。毎年、お忙しい中おいでいただき、清掃奉仕にご参加いただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。

川上仏教婦人会連合法座にご参詣いただき誠にありがとうございました



7月3日(日)に当山で、川上仏教婦人会の法座がありました。当日は総会・演奏会・法座・バザー等があり、多くの方々にご参詣をいただきましたこと書面をお借りしまして感謝申し上げます。

また、バザーの売上金は熊本震災の被害に充てられ、この件もバザー品を出品して頂きました方、品物を買って頂きました方、その他バザーにご尽力をいただきました仏教婦人会の方々も含め、ご協力をいただきました多くの方々には重ねて感謝申し上げます。

ご講師の件では皆様方にご迷惑をおかけしましたことあらためてお詫び申し上げます。

「生」と「活」から考える・・・「私の生涯を意味あらしめるもの」



仏教では、生活を「生^{しょう}」と「活^{かつ}」に分けて考えます。日頃、私たちが使用しています「生活」は、仏教では「活」と表現します。

例えば小学生の宿題、中・高生の受験、社会人になり職に就き働く事等は「活」になり、とどのつまりは食べていく事に終始していることを言います。

私は、来年で還暦を迎えます。先般、友人と話をしていましたと「65歳まで働けるが、60歳になったら会社を辞めようと思う。実家の島のみかん畑等をしながら、ゆっくり生きていくよ。」それに対して同席していました友人が「おれも60歳になったら辞める。」

一般社会では、還暦を迎えますと多くの方が、子どもが独立し手が離れ、勤めていた会社等を辞められる時期なのかもしれません。

偉そうな事は申せませんが、「活」が終わると、自ずから「生」が重きを持つてくるようになるのかと考える事があります。簡単な言葉で言えば、「生きがい、何のために生きているのか、何のために生まれたのか。」等でしょうか。一方で、私の少ない経験の中で申したなら、突然の大病等により今述べました様な事を考える機会となるのかもしれません。

「活」で忙しい時期、すなわち子育て、会社でバリバリ仕事をしている時期等には、今申しました様な「生」の事は、目の前の事に追われあまり考える事は無いと勝手に思う事もあります。

しかし、「活」が一応終わりますと「生」という問題を考えるようになるのかもしれません。ある方が「活を貫く生という問題を解決すれば、その生は活を貫く」と書かれていました。この点から申すならば、書かれていましたが「生活の全てが、意味づけられる。」とでも申しましょうか。

もっと詳しく言えば、「何故この様な苦しい事に遭わなければならないのか。」「何故この様な悲しみに遭わなければならないのか」等々、世間で味わう不安・恐怖・悩み・苦しみ、思いもかけない悲しみ等々の全てが、意味づけられると思ったことでもあります。

偉そうな書き方で申し訳ありませんが、順縁・逆縁も含め人生全てのご縁を南無阿弥陀仏のご縁として歩む人生、いわゆる世間道せけんどう(私たちが歩く人生・・・地位・財産・名誉・健康・家族等を求めていく人生の事です。)そのものが仏道への転回となる人生。これもその方が書いておられました。が、「全生活を貫き通し、私の生涯を意味あらしめる教えを持つ。」その様な教えに出遭い、「人間の根源的な問い・・・生き甲斐、生きる意味等」を教えていただきながら、この厳しい現実の人生を歩み、一方で私には無理ですが、阿弥陀様の働き・願いの中で、事実は事実として粛々と受け止めていく往生浄土への人生、ある意味辛い・暗い人生から、人生を貫く明るく・大きな道が開けてくるのかも知れないと無理を承知で考えた事でもあります。